

# 会誌「物理探査」査読ガイドライン

会誌編集委員会

査読者の皆様へ

会誌「物理探査」への投稿原稿の査読につきまして平素ご協力賜りありがとうございます。

査読に際しまして、査読者の皆様には下記のごとき基準をお含みくださいますようお願い申し上げます。また査読時にご注意頂きたい点も付記いたしましたので、あわせてご覧頂きますようよろしくお願い申し上げます。

## 1. 原稿が具備すべき条件

- a. 本学会の目的にふさわしく、下記の種別に応じた内容であること
  - 1) 論説 物理探査技術および関連諸学問分野に関して、大局的視野から技術的あるいはその他の動向につき論じ、将来の方針を示唆しようとするもの。
  - 2) 論文 同上に関する各種の研究、調査、試験結果の報告で創意工夫や特色があるもの。
  - 3) 短報 論文と同じ性格をもつものであるが、限られたテーマに関する速報的な内容のもの。
  - 4) 技術報告 物理探査技術および関連分野についての調査実例、技術経験あるいは提案など会員の参考になるとと思われるもの。
  - 5) 講座 同上の各専門分野に関する基礎理論、技術の適用対象などにつき、テーマを定めて系統的に説明するもの。
  - 6) 解説 同上に関する特定技術、トピックスなどについて説明するもの。
  - 7) 資料 1~6 に属さないもので会員の活動に参考になるとと思われるもの。
  - 8) 論評 1~7 および8 に対する意見、討論および提案など。
  - 9) 通信 研究室紹介、ソフトウェア紹介、海外出張報告など、会員間のコミュニケーション促進に役立つもの。
  - 10) その他 講演要旨、文献紹介、書評、ニュース、学会関係記事、その他会誌編集委員会(以下、編集委員会と記す)が適当と認めた事項。
- b. 会誌投稿規定に違反しないこと。
- c. 題名は内容と一致し、表題として適切であること。
- d. 記述に誤りのないこと。
- e. 論旨が明確で表現が適切であること。
- f. 結論が正しい手順で導かれていること。
- g. 文献の引用などが適切であること。

## 2. 査読の方針

- a. 本学会の目的にふさわしくない原稿以外は、できるだけ採択する建前のもとに、ご査読くださるようお願いいたします。  
従って査読は単に合否を決する審査員の立場ではなく、よりよい論文を著者とともに作り上げていく助言者の立場でなされることをご承知おきください。
- b. 編集委員会では、物理探査の技術面・応用面に対してインパクトを与えるケーススタディは(新しい技術を伴わないものであっても)、論文・技術報告等として積極的に会誌に掲載する方向といたしております。
- c. 査読の判定結果および査読内容は、別添えの査読表にご記入ください。
  - ・ 初回査読時は査読表の「判定」欄の評価1~5の内、いずれか1つを選択ください。
  - ・ 再査読時は「判定」欄の評価1, 2, 4の内、いずれか1つを選択ください。  
(これは、3度目の査読を基本的には実施しないことを意味しております。)
  - ・ 原稿全体を通じた査読者の意見などを「査読内容」(様式-1)にご記入下さい。また文章・図表などに対する査読者の詳細な意見を「修正意見、照会事項、指摘事項、そ

の他」(様式-2)および原稿にご記入下さい。

- d. 掲載不可の判定の場合は、著者が判定結果について十分納得できるように、掲載不可の理由を明確に示して頂いた査読コメントが必要です。別紙の査読表の「判定」欄をチェックいただくとともに、「査読内容」や「修正意見、照会事項、指摘事項、その他」の欄に以下の要件の記述をお願いいたします。
  - ・ 投稿原稿の問題点などの指摘
  - ・ 投稿原稿に対する査読者の判断、改善点の提案
  - ・ 以上の根拠となる参考論文などのリスト
  - ・ 種別変更と判断される場合はその理由
- e. 著者に種別変更を薦める場合は、まず掲載不可の判定を頂くこととなります。また著者が種別変更を行い再投稿した場合、初回投稿時の査読者とは異なる方に査読をお願いする場合がありますのでご了承下さい。
- f. 査読表にある「修正意見、照会事項、指摘事項、その他」に関しては、単に「...英文はよりいっそうの吟味を要します...」というような漠然としたコメントではなく、具体的な改良点を示していただくことが望まれます。
- g. 再査読時には、初回の査読結果にはない新たな修正項目や条件を付け加えないように、ご注意願います。
- h. 編集委員会では、原稿内容の最終責任は著者にあるとの方針をとっております。

### 3. その他

- a. 査読期間は最長1ヶ月とさせて頂いております。円滑な会誌編集のため、ご協力をお願いいたします。なお査読後の著者の原稿修正期間は最長6ヶ月です。評価5(=判定しかねるので他の専門家に再査読を希望する)の場合は、できるだけ早期にその旨を事務局までお知らせいただきますようお願いいたします。
- b. 1つの原稿に対する査読者の数は、論文・短報の場合は2名、その他の場合は1名です。また著者に対しては、査読者は匿名となっております。
- c. 査読者の意見を原稿へ書き込む場合は、黒・青または赤のボールペンをご使用ください。
- d. 原稿の掲載可否の最終決定は編集委員会の責任で行います。個々の査読者の評価と相違する場合がありますが、予めご了承いただきますようお願いいたします。なお掲載論文に対して相違するご意見をお持ちの場合、その旨を文章にお書き頂き、「論評」として積極的に会誌へご投稿頂くことを、編集委員会は希望いたしております。(あるいは「論評」のご投稿をお願いする場合もございます)。

以上